

一般社団法人 繊維補修補強協会
第六期（2016年10月1日～2017年9月30日）事業計画

1. 事業の方針

本協会の目的である「連続繊維補強材による既存コンクリート構造物の補修・補強工法の施工技術者の技術向上と工法の健全なる発展」に寄与する活動を推進する。

連続繊維補強工法に携わる施工技術者の人材育成を進めるため、技術研修制度による施工技能及び施工管理技術の向上を図り、併せて資格認定制度に基づく「連続繊維施工士」及び「連続繊維施工管理士」資格者の育成とその普及、活用を推進する。

協会が進めている教育研修事業及び資格認定事業を、会員及び関係事業先に対しなお一層の周知を図り、あわせて有資格者の活用の定着化を図るため、発注者、設計者並びに関係機関へ一層の働きかけを行う。

これら活動により連続繊維補強工法の施工品質を確保して顧客の信頼性を高め、連続繊維補強工法を構造物の維持管理の有力な手法として社会に定着させる。

協会運営においては、連続繊維補強工法に対する技術的情報基盤の整備を進め社会に発信すると共に、会員各位との関係をより一層緊密なものとなるよう連携を深め、会員各位の事業活動に貢献できるよう事業を推進する。

2. 事業の内容

(1) 教育研修事業の推進

1) 教育研修会の開催

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士を目標とする施工技術者に対し、連続繊維補強工法に関わる技術の研修を行う。

連続繊維施工士に対しては、施工技能者として必要な施工技能上の留意点の他、連続繊維補強工法に用いる材料及び施工技術等の研修を行う。

連続繊維施工管理士に対しては、施工管理者として必要な知識として、連続繊維補強工法の背景・特徴、使用材料の特徴・使用上の注意点並びに施工管理・安全衛生管理上の留意点等の研修を行う。

これらの教育研修に向けて研修会用テキスト等協会独自の教材を整備する。

連続繊維施工管理士研修会に対しては、継続学習制度（CPD）のプログラム認定を受け、研修会の付加価値を高め、制度に登録した受講者への参加意欲向上を図る。

2) 施工技術者評価の実施

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士の研修会受講者に対して、研修会終了後、習熟度判定の検定試験を行う。

安定した技量評価のために、外部識者の指導による試験問題の作成を行い、客観性を持った結果の評価、判定を実施する。

3) 研修会・検定試験開催予定

〔施工管理士〕

①大阪会場	2017年	3月上旬	予定定員	40名
②東京会場	〃	4月上旬	予定定員	70名
③福岡会場	〃	6月上旬	予定定員	30名
④仙台会場	〃	9月上旬	予定定員	30名
計	4会場		予定定員	170名

〔施工士〕

①東京会場	2017年	4月中旬	予定定員	40名
②福岡会場	〃	5月下旬	予定定員	30名
計	2会場		予定定員	70名

(2) 認定資格登録事業の推進

1) 検定試験合格者の登録推進

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士の検定試験合格者に対し、資格登録を奨励する。

登録者には、資格証及び携帯型資格証と併せ実務用資料を交付するとともに、協会会報やホームページに掲載し、工事発注者や設計者等外部から確認することができるよう開示する。

2) 既登録者の資格更新の推進

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士の両資格とも、初回取得年より3年、継続更新後5年のそれぞれ期末日（9月末日）を有効期限としており、この有効期限を失しない様、更新登録を奨励推進する。

当期末で登録有効期限が満了する既登録者に継続更新案内を発送、注意喚起し、更新登録を勧奨する。（継続更新対象者総数：両資格合計 501名）

更新を失念し有効期限を失効する者が散見されるため、協会規程において失効更新可能な登録者（失効後5年未満）に対して失効更新案内を行い、更新を勧奨する。

所属団体としての更新奨励を願うべく、複数の更新対象者を要する会員団体及び事業団体への更新対象者情報を提供する。

規定の更新申請がなされた者に対して、新たな資格者証を交付すると共に、2017年版の研修会用テキスト（第16版）の他、実務資料を交付し、直近での連続繊維施工技術情報の自己研鑽を督励する。

(3) 普及啓発事業

連続繊維補強工法に関する市場・技術情報を収集、検討整理し、研修会用テキストほか各種媒体に整備・活用すると共に、研修会・資格認定試験・外部問合せ等に対する協会の技術的基盤の強化を推進する。また、パンフレット、会報及び協会ホームページ等の整備並びに各種メディアへの広告・記事掲載等を通じて、協会活動

を設計者・事業者によく伝達し、連続繊維施工士および連続繊維施工管理士の資格認定制度の普及を推進する。

1) 技術情報等の収集整備

耐震補強等に関する行政及び関係諸団体の動向を把握し、会員へ適宜配信する。また協会内外の連続繊維補強工法に関する技術動向及び市場の状況並びに技術ニーズ等を適宜収集整理し、連続繊維補強工法及び関連技術の進展を図ると共に、関係技術資料・指針等を蓄積整備し、会員支援に向けた協会の技術的基盤整備をすすめる。

2) 研修会用テキスト等教育研修会用媒体の整備

資格試験受講者の教育研修会及び有資格者の自己研鑽を目的とした当協会独自のツールを準備しており、これらの媒体を2017年版として改訂、整備する。直近の行政、社会状況及び施工技術・製品環境にあわせた内容改定のほか、実用性の高い資料として改訂整備し、該当先に提供する。

3) 広報活動の推進

連続繊維補強工法及び資格認定制度等の協会活動への工事上流側の理解を高めるよう、土木、建築系の発注者・監理者への広報活動を進める。

最近の状況を含めて協会活動に関わるパンフレットの改訂を行う。会報の定期的な発行を進め、ホームページとの連携をとりながら、関係諸団体、会員、資格者への浸透をはかる。

ホームページは特に有力な広報媒体と認識されることから、掲載内容を常に整備し、協会活動の最新情報を適時発信する。動画等のコンテンツは理解を深めると共に注目を集めやすいことから、積極的に広報素材として収集加工し導入を進める。

補修補強工法に係る各種団体等との交流機会を深め連続繊維補強工法の浸透を図ると共に、業界紙や関係雑誌への記事投稿の機会を積極的にとらえる等、事業者、設計者、コンサルタント等への協会活動の周知と理解を深め、連続繊維補強工法や資格者の活用を広く訴求する。

(4) 会員との連携

協会ホームページを定期的に更新し、各種案内（試験案内、会報他のお知らせ）を適時伝達するよう、協会活動全体についての会員向け案内を充実する。

2019年に協会発足20周年を迎えるにあたっての記念事業等の企画作り等を通じて、協会活動が会員事業への貢献につながるよう新たな施策につき検討を進める。